

大阪府宮泉佐野

長滝住宅

1985
~90

当計画は、空港アクセス・阪和線沿い広域幹線・新設阪和線の交通網に取り囲まれた、不整形な敷地をもつ公営住宅団地（計画戸数304戸、3.07ha）である。土地の有効利用と共に変化のある街並み形成を図るため、不整形な敷地形状沿いに中層住棟を連続させ、住棟間をヒューマンな『コモン街路』としている。

住棟は、コモン街路を挟んで北入り、南入りとし、住宅のアクセス形式によるコミュニティの活性化を図り、団地の中央部は豊かな広場とし、全体の屋外パブリックスペースの核とした。

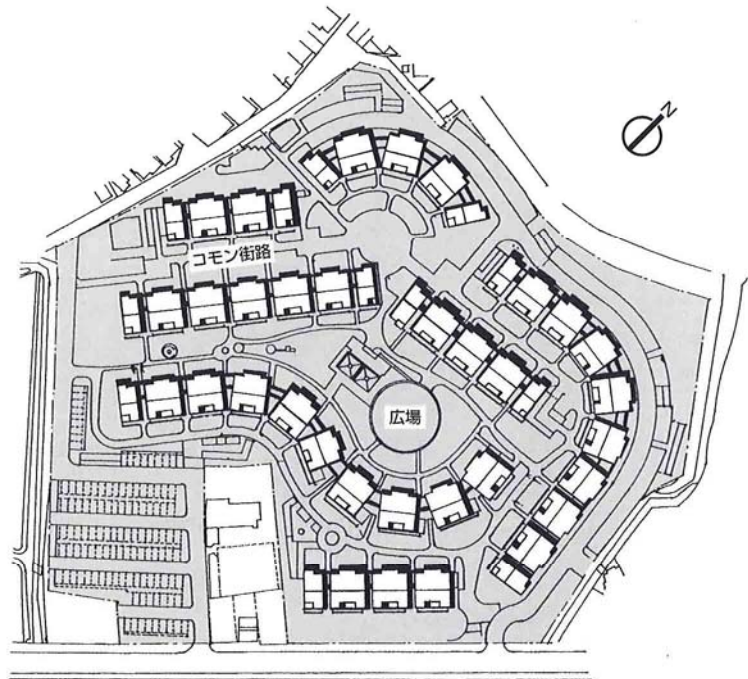
空間構成は、ハードなコモン街路（セミパブリック）と対称的なソフトな広場（パブリック）、更に団地の玄関口、連続するコモンアルコーブ等、コミュニティの段階的構成とその質、およびスペースの多様化を図っている。

建替前からある桜並木は、従前居住者の『原風景』として保全した。

住棟構成は、住戸ユニットをバリエーションを持つ階段部で連結させることにより、連続した街並み景観が形成された。

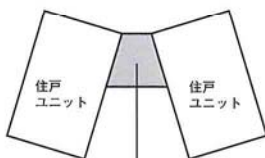


■コモン街路による対面する住棟アクセス



■配置図

■連続住棟の考え方



標準住戸ユニットをバリエーションのもと階段室で連結した住棟



■模型写真